

＜ もくじ ＞	ページ
1. 2009年定時総会・第8回大会開催について	1
2. 第5回連続講座に参加して	1
3. 2008年度新入会員紹介	2
4. 研究会のお知らせ	2
5. 「裁判員制度」公開講座のお知らせ	3

## 1. 2009年定時総会・第8回大会開催のお知らせ

2009年定時総会・第8回大会の日程・会場が決定しましたのでお知らせします。万障お繰り合わせのうえ、ご出席下さい。

日 時 2009年5月30日(土) 10:00～18:00

会 場 東京家政学院大学 4階 階段教室(三番町校舎)(千代田区三番町22番地)

最寄り駅: JR・東京メトロ「市ヶ谷駅」下車徒歩10分

第1部 定時総会、会員による研究発表他 10:00～12:00

第2部 第8回大会 13:00～16:10

テーマ『いつでも現役、いつまでも現役』

基調講演: 清家 篤(慶応義塾大学教授、シニア社会学会副会長)

パネルディスカッション

第3部 懇親パーティ 16:30～18:00

なお、詳細はゴールデンウィーク明け、皆様のお手元にお届けいたします。第2部大会は、一般の方も参加歓迎しますので、テーマに関心のある方をお誘い下さい。

## 2. 第5回連続講座に参加して

講師: 沖藤 典子氏(ノンフィクション作家) 「母の乱-無慈悲と慈愛」

塩谷 幸子さん(豊島区)

沖藤さんは、母上の死に臨んで始めて母上が婚家に置いて出た8人の異父兄弟と話す機会を得たが、再婚後に誕生した自分にとって大切な「慈愛に満ちた母」が、彼等には「無慈悲な母」と捉えられてきたことに戸惑う。真の母の姿を求めて9人の異父きょうだいが交流を重ねた末に、母上の背負い続けた悲しみや苦しみ・子どもへの深い想いを理解し、子等が持ち続けた母への強い思慕と誇りに気づく過程を、沖藤さんは様々なエピソードと共に語った。困難に遭遇して“押し負けを食らわぬ”激しい気性と出自に由来する強い自尊心を持つと同時に、家族のために“はっちゃきこいて”頑張る愛情溢れる母上だったとの評価を共有できた時、沖藤さんは、母上の“人間としての真”を確信するに至る。会場からの質問に対する沖藤さんのユーモアあふれる回答に笑いがこぼれるシーンもあり、なごやかで楽しい午後の一時であった。

苅田 智子さん(千葉市)

異父兄弟にあたる八人の子供を残して、男と家出した母親の過去を25歳まで知らなかったということ、そして残された八人の幼子たちは、一致団結して育ち、母親に恨みをもちながらも、深く愛して、父親のDVによって家出したことに理解を示しながらも、一年に一度集まり、みんなで大泣きして、大ゲンカとのことでした。

母上のこころの中には、父である安田貞謹の存在が大きく、その娘としての誇りがあり、教育者であった安田貞謹の自由民権思想が、母上の生きる上での支えになっていたと思われました。したがって、母上の家出の動機として、自尊感情が、夫のDVを許さなかったということであり、女が耐えることを当然とした時代に反逆されたことは、女性の生き方を見直す上で重要な点であると思いました。

### 伊藤 清美さん（桶川市）

親子とは夫婦とは家族とは何だろう。血のつながりだけでは語れない何かがあるような気がする。不幸の形が一つではないように、これらの形も多様なのが現実というものだろうと思う。女がひとりの人間として生きる為には「乱」を起こすしかなかった、ということだろうか。才覚ある女はそれ故、男の嫉妬や暴力に晒された。母であり、妻である以前に「自分は自尊心を持つひとりの人間である」というメッセージがひしと伝わってくる。残された子供達は母を恨み、自分達の不幸を嘆いたかもしれない。だが彼らも成長するにつれ、離別するしかなかった母の生き方を解し、プライドを持った人間として生きていくことを選んだ勇氣に、母の愛を見たのではないだろうか。

時代に翻弄され、歴史の中に限りなく埋没させられてきた「女」というものに課せられた運命を思うと、「母の乱」は日本の女性史を語る一つの証なのではないかと考えさせられた。

## 3. 2008 年度新入会員ご紹介（敬称略）

2008 年 4 月から下記の皆様が、シニア社会学会の会員として登録されました、ご紹介します。帯刀益夫（東京）、野口圭子（東京）、岩崎昭男（埼玉）、小松康信（岡山）、佐藤宏子（東京）、津田好子（東京）、入山 映（東京）、春日珠紀（長野）、松澤 宏（東京）、森本裕紀（東京）、柴田郁夫（埼玉）、近藤 勉（大阪）、今井洋子（東京）、藤本恵美子（埼玉）、渡辺純子（神奈川）、岡崎曠敬（神奈川）、長田攻一（埼玉）、岡田千加夫（群馬）、富安兆子（福岡）、下田敦子（東京）、藤村宣之（埼玉）、榊原節子（東京）、山下末裕（東京）、三田資子（東京）、（財）ダイヤ高齢社会研究財団（東京）、㈱エンディングプラン（東京）

## 4. 研究会のお知らせ

### （1）第5回社会保障研究会（座長：袖井孝子シニア社会学会会長）

日 時 2009 年 3 月 2 6 日（木）18:00～20:30  
場 所 日本高齢者生活協同組合会議室（豊島区池袋 3-1-2 光文社ビル 6F）  
電話：03-6907-8043 地図：<http://www.kourei.roukyou.gr.jp/>  
報告者 定塚 由美子（厚生労働省雇用均等・児童家庭局職業家庭両立課長）  
テーマ 少子化対策と仕事と家庭の調和

### （2）第6回社会保障研究会（座長：袖井孝子シニア社会学会会長）

日 時 2009 年 4 月 2 3 日（木）18:00～20:30  
場 所 日本高齢者生活協同組合会議室（豊島区池袋 3-1-2 光文社ビル 6F）  
電話：03-6907-8043 地図：<http://www.kourei.roukyou.gr.jp/>  
報告者 金 貞任（東京福祉大学 准教授）  
テーマ 韓国の介護保険

### （3）自立と共生の社会学研究会（座長：濱口晴彦シニア社会学会副会長）

濱口研究会第 4 シリーズ「自立と共生の社会学研究会」が開講します。今般、発刊されました濱口晴彦編著「自立と共生の社会学」をベースに、今日のシニア社会をより深く掘り下げ、

広げて行こうというコンセプトです。「自立と共生の社会学」を読み解きながら、参加者は8章からなるテーマの中で関心のあるテーマに関り、研究会をゼミナール形式で進めます。各テーマの執筆者に研究会に出席いただき、コメントをお願いすることも考えています。

第1回は、日 時 2009年4月17(金) 17:00~19:00

場 所 早稲田大学高田牧舎 2階 人総研会議室

テーマ ①濱口座長から新シリーズ開講のコメント  
②テーマの分担について意見交換

なお、研究会参加費として200円徴収します。当日お支払下さい。

参加希望者はメール又はFAXにて事務局までご連絡下さい。担当は島村です。

## 5. 「裁判員制度」公開講座のお知らせ(横浜立教会第2回公開講座)

横浜立教会は立教大学共催、神奈川新聞社、シニア社会学会後援で、5月から始まる話題の「裁判員制度」について公開講座を開きます。ご家族・ご友人お誘いのうえ、ぜひ皆様ご参加下さい。

日 時 2009年4月11日(土) 14:00~16:00

場 所 ホテル横浜ガーデン(JR 関内駅下車、横浜スタジアム隣)

内 容 「あなたが裁判員になったらどうする!!」<http://www.yokohama-rikkyo.org/>

映 画 「裁判員になりました~ニュースの向こう側」上映後対談と質疑応答

対 談 松田豊治弁護士(第一東京弁護士会)

川添利賢教授(立教大学法務研究科、元裁判官)

参加費 500円(当日徴収)

申込み 横浜立教会事務局あて、FAXかメールで4月4日までにお申込下さい

FAX 045-369-1716 E-mail: [info@yokohama-rikkyo.org](mailto:info@yokohama-rikkyo.org)

問い合わせ先 幹事長・望月幸代(上記にFAXかメール)へ

---

シニア社会学会・事務局(月・水・金オープン)  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階  
電話&FAX:(03) 5778-4728  
E-mail: [jaas@circus.ocn.ne.jp](mailto:jaas@circus.ocn.ne.jp) URL: <http://www.jaas.jp/>